

「第2回和歌山市ワカモノ会議」

(令和7年8月24日開催)

実 施 報 告 書



主催 和歌山市教育委員会

第2回「和歌山市ワカモノ会議」開催要項

1 開催趣旨

和歌山市の未来を担う青年たちが、若者の視点をもとに学校・家庭・地域など社会全体で子供達を育てていくことの意義や可能性について話し合い、和歌山市の教育の発展に寄与することを目指す。

また、世代間・学校間を越えて、生徒や学生が交流することで、新しいつながりが生まれお互いを高め合える機会を創出する。

2 主 催

和歌山市教育委員会

3 応募資格

市内に在住する高校生・大学生及び市内の高校・大学に通学している方

4 参加者

- ・ 2 大学 10 名（和歌山大学・和歌山信愛大学）
- ・ 7 高校 14 名（向陽高等学校・桐蔭高等学校・和歌山北高等学校・
和歌山東高等学校・開智高等学校・智辯学園和歌山高等学校・
近畿大学附属和歌山高等学校）

5 日程

開催日時 令和7年8月24日（日）13：00～16：00

開催場所 勤労者総合センター6階 文化ホール

- 内 容
- ①自己紹介。
 - ②トークセッション。
 - ③司会と発表者を決定。
 - ④付箋を活用し、ブレインストーミングの手法を使って意見を出し合う。
 - ⑤出し合った意見についてKJ法により集約する。
 - ⑥意見をまとめ、各グループ全体発表（各グループ3分程度）。

6 討論テーマ

- A 義務教育で身につけた大切なこと:今になってわかること
- ・義務教育を通して学んだ知識やスキル、考え方の中で現在役立っていること等
 - ・学生が感じる義務教育で行うキャリア教育のメリットと課題について等
- B 学校生活でコミュニケーション能力をつけるのに大切なこと
- ・コミュニケーション能力を学ぶ上で影響を受けた人物や出来事等
 - ・学生の視点から考えるコミュニケーション能力育成のアイデア等
- C 家族や地域から学んだこと
- ・地域社会(スポーツクラブや習い事、祭りなどの地域活動など)が与えてくれた学びや成長への影響等
 - ・「地域みんなで子どもを育てる」ために必要なこと等

7 各グループの発表内容

①討論テーマ A-1班(4名)

学 校 名 和歌山大学・向陽高等学校・
桐蔭高等学校・
近畿大学附属和歌山高等学校
(各1名)

内 容 義務教育で身に付けた力を4つのグループに分類した。①自身の身体的能力などを高める「生存能力」、②友達や先輩、教師との会話、集団行動によって形成される「コミュニケーション力・常識」、③友達関係の構築やクラブ活動による異年齢集団による「人間関係」、④地域との関りや情報活用スキル「キャリア教育」。この4つの力を身に付ける中でそれぞれ利点や難しさ、課題もある。しかし、大切なことはその力を学校内で発揮するだけで終わらせるのではなく、様々な人たちと協力しながら地域や社会で4つの力を活かしていく必要がある。



②討論テーマ A-2班(4名)

学 校 名 和歌山大学(2名)

向陽高等学校・桐蔭高等学校

近畿大学附属和歌山高等学校(各1名)

内 容 義務教育を受けてきた中で、先生や友達など人と人とのつながりが生まれた。また、キャリア教育では、地域や企業とのつながりを得ることができた。「つながり」をキーワードと捉え、キャリア教育を充実させていくことによって、子ども達が社会とのつながりを広げたり、日常生活と数学などの学習内容を関連付けることで学ぶ意味を見出したりする。様々な「つながり」の充実を進めていくことが重要であるとする。



③討論テーマ B-1班(4名)

学 校 名 和歌山大学(2名)

開智高等学校・和歌山北高等学校

(各1名)

内 容 コミュニケーション能力が高い人とはどのような人なのか話し合い、それは積極的に行動することができる人であると結論付けた。積極的に行動するためには、環境を整えることと気持ちや態度に表す必要がある。学校でできることとして、安心できる学級づくりやディベートなどの話し合う学習の充実、自分も相手も肯定される関係性の構築等を進める必要がある。こうした環境づくり、気持ちや態度に表すことを通して、積極的に行動する力を育てることがコミュニケーション能力を身に付けることになると考える。



③討論テーマ B-2班(4名)

学 校 名 和歌山大学・和歌山信愛大学
和歌山東高等学校・桐蔭高等学校
(各1名)

内 容 コミュニケーション能力を身に付けることにより、視野が広がり、何事にも前向きに楽しんで取り組めることができるようになる考えた。そのため、学校生活で大切になることは、たくさんの人と話す機会を設けることや話題のヒントになるような掲示物を作成すること等がある。また、聞き手の役割も重要である。目線を合わすことや話を遮らないことは勿論のこと、話し手の内容に応じた反応を返すことなどができるようになると話し手はより安心して話すことができるようになる。文字だけのやり取りではなく、直接コミュニケーションを図ることを大切にしていきたい。



③討論テーマ C班(3名)

学 校 名 和歌山大学・和歌山信愛大学
智辯学園和歌山高等学校(各1名)

内 容 総合的な学習の時間で地域について学んだり、交流したりすることによって、地域とのつながりを深めることができている。昨今、祭りやイベントなどへの若者の参加が減ってきている。そうした現状を考えると学校単位での参加を検討してもよいのではないだろうか。地域との関係を深めることは危険から身を守ることにもつながり、相互の関係を深めていくことは重要になってくる。また、そうしたことを進めていくには家族の支えや家族との参加などによっても継続していくことができるのではないだろうか。



8 教育長総評(要旨)

皆さんの笑い声、笑顔、そして会話がありました。グループでは大学生の方が中心になって進めていたところが多いとは思いますが、高校生の方も本当にうまくコミュニケーションをとって自分の意見を言えていました。意見をまとめるところに苦労はしていましたが、多くの付箋を使っているグループ、最初から手順を計画して最小限の付箋の数でまとめているグループもありました。



発表でも聞く態度が大事といったこともありましたが、そういうコミュニケーション能力を皆さん持っています。わずか2時間弱の活動でしたが、1つのチームとしてまとまっており、本当に素晴らしいコミュニケーション能力だと思います。

昨年度は、「住みたい、住み続けたいと選ばれるまち和歌山市」をテーマに学校ごとに発表してもらいました。ですが、今年は初めてこの場で顔合わせして、話し合ってもらいました。どちらも良かったことなのですが、社会

に出ていくと会社や役所等、ある程度特定のメンバーで仕事をしていくけれど、色んな人と出会い、その日の会議をすることがとても多いです。大人になるとなかなか第一声が出ず、様子見をしてしまいます。ですが、今日皆さんは自分の思っていることを進んで言ってくれる、これが本当に何より素晴らしかったなと思います。

教育委員会が大事にしているポイントもいくつか発表してくれました。キャリア教育については、学校や地域によってやり方が違うことや地域との繋がりをどうするのかなどの課題も発表してくれました。コミュニケーション能力についても積極的な行動力や話して聞き手の立場を考えることなども発表してくれました。

教育というのは、人づくりだと思います。教育で一番大事なことは人づくりで、社会に出た時に社会人として自分の役割を果たしていくという人づくり。人をつくっていくというのが教育の大事な役割です。国語や数学、英語などの勉強も大事です。これを学ばないとやれないこともたくさんあります。でも、最終はやっぱり人間力です。皆さんのようなコミュニケーションがしっかり取れる、話す側聞く側の気持ちを考えたり、相手を思いやったりすることができる、そういう人をつくっていくというのが教育の一番大事なことだと思います。和歌山市の教育を受けてきてくれた人、他の市町村で教育を受けてきてくれた人もいるけれど、学校生活があつて良い友達、先生方に恵まれたのだなと思います。皆さんからいただいた意見は大事にして、教育行政などの中に少しでも活かしていけるようにしたいと思います。

皆さんのような素晴らしい人を育てることができている皆さんの学校に敬意を表しますし、保護者の方々、地域の方々に感謝の気持ちでいっぱいだということをお伝えし、感想になりますが、終わらせていただきます。今日は本当にありがとうございました。

9 閉会あいさつ(和歌山市教育委員会 教育局長:要旨)

まず、皆さん、今日は参加して楽しかったですか。全員楽しんでいただけて良かったです。

今回は去年度に参加された方から「他校や他校種の人もっと話せる機会があった方が良い」という



ご意見を取り入れて、思う存分大学生と高校生や違う学校で生活している人と話し合えるような形でさせていただきました。本当に思う存分皆さんとコミュニケーションできたのは良かったと思います。

高校生は大学生になったらこんな考え方もできるんだと思い、大学生は自分が高校生の時にこういうことをしておけばよかったと感じたことをお互いに伝え合い、教え合うことができたのではないのでしょうか。

和歌山市教育委員会としては、市内の小中学校と1つの高等学校ですが、皆さんも義務教育を経て、今通われている高校や大学に進学されたわけです。私共は高校生や大学生の方と接することがほとんどありません。そのため、今日は皆さんの色々な話を聞いて、これを義務教育にどのようにして活かしていけるかと思いました。

今日は色々な意見を出し合って、真剣に考えてもらったと思います。これから皆さんは自分達の社会や身の回りのことをつくっていきます。それは皆さん一人一人の気持ちであり、皆さんがこれからの社会をつくっていく一員です。

これから大学に進学したり、就職したりしますが、この故郷和歌山市に戻ってきていただいて、和歌山市を良くしていこう、自分たちの町なんだという思いを持っていただければと思います。今日できた繋がりも経験の1つの糧として、皆さんの心の中に和歌山市をずっと置いていただきたいと願っております。

今日は皆さんから本当に良い意見をいただきました。ありがとうございました。

10 参加者の感想

- ・様々な年代、学校、地域から来ている人と話せて視野が広がった。
- ・自分一人だけでは思いうかばなかったような意見も話し合うことで得られることができた。
- ・今まで所属していたグループとは全く違う人との交流ができたことが特によかった。
- ・違う学校や大学生の人と話すことができ、自分では得られない知識や感じ方を知ることができた。
- ・考えたことを発表し、他の意見発表を聞くことができた。
- ・いつもは考えていないことを改めて考えることができ、新しい見方につながった。
- ・「地域や家庭から学んだこと」について話し合うことで、自分と地域の関りについて改めて考え直すきっかけになった。
- ・会議や討論の進め方を大学生と教育委員会の方から学べてよかった。
- ・教員を目指しているので、これからの実習などに役立つと感じた。
- ・教育分野にあまり興味がなかったが、少し興味を持つことができた。
- ・若者の立場から出た意見が和歌山市の教育や政治に役立てば嬉しいと思う。

ワカモノ会議全体の満足度

項目	満足	やや満足	どちらとも言えない	やや不満	不満
人数 (人)	18	1	0	0	0

ワカモノ会議の内容は今後役に立ちそうか

項目	そう思う	やや そう思う	どちらとも言えない	あまり そう思わない	そう思わない
人数 (人)	16	2	1	0	0

令和7年8月

和歌山市教育委員会 青少年課 作成